

第4次佐賀市食育推進基本計画について

佐賀市食育推進協議会

令和8年7月24日

I 第4次佐賀市食育推進基本計画について

1 計画策定の目的

本計画は、市政の基本方針を定めた「第3次佐賀市総合計画」の施策「日頃から取り組む健康づくりの推進」を図るための計画である。食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、心身の健康の増進と、豊かな人間形成を育み、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めることを目的とする。

2 計画の位置付け

本計画は食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画であり、本市の食育推進に関する基本的事項や方向性を定め、食に関する施策を総合的かつ計画的に推進する基本的な指針となる。

また、国の「第5次食育推進基本計画」や「第2次佐賀県食育・食品ロス削減推進計画」の基本的な方向を踏まえ、食育を推進していくための計画とする。

[国] (令和8年度～令和12年度) 第5次 食育推進基本計画

- (1) 学校等での食や農に関する学びの充実
- (2) 健全な食生活の実践に向けた「大人の食育」の推進
- (3) 国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大

[佐賀県] (令和8年度～令和12年度) 第2次佐賀県食育・食品ロス削減推進計画

- (1) 若年層を中心とした食育の取組を強化
- (2) 未利用食品の提供促進と、食品提供を円滑にする体制づくりを強化

[佐賀市] 第3次佐賀市総合計画 (令和7年度～令和22年度)

○日頃から取り組む健康づくりの推進

第4次佐賀市食育推進基本計画

3 計画の期間

本計画は、国の「第5次食育推進基本計画」等との整合を図り、計画期間を令和9年度から令和13年度までの5年間とする。なお、社会情勢の変化や各種制度、法令の改正などを踏まえ、必要に応じて見直しを行う場合がある。

4 第3次計画における指標の達成状況と課題

資料2 第3次佐賀市食育推進基本計画の最終評価 参照

II 計画の基本的な方向について

本市の食生活の現状を見ると、朝食欠食の増加や、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事、野菜摂取の減少など、栄養バランスの乱れが進んでおり、生活習慣病リスクの高まりが懸念される。また、学校における地場産物の活用は一定の成果を上げている一方で、農業・漁業体験の減少や地産地消意識の低下が見られる。さらに、食品ロスに関する意識は高い水準にあるものの、食品表示の活用や削減行動といった実践面には課題が残る。これらの状況を踏まえ、以下を計画の理念とする。

○第4次佐賀市食育推進基本計画(令和9年度～令和13年度)

方向性1 生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進

方向性2 食卓と生産現場をつなぎ、食文化を次世代に伝える食育の推進

方向性3 持続可能な食を支える食育の推進

方向性1 生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進

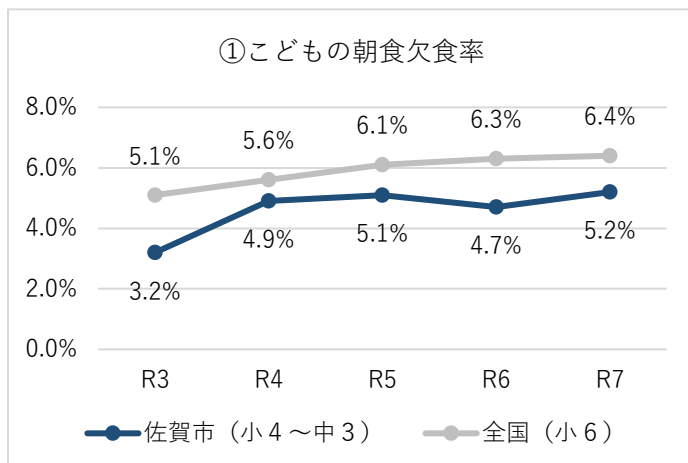
一人ひとりが食に関する知識を身に付け、食習慣を見直す行動を取り入れるとともに、それらを日常生活の中で継続的に実践できるようにすることで、生涯を通じた健康の維持・増進を図る。

現状・課題

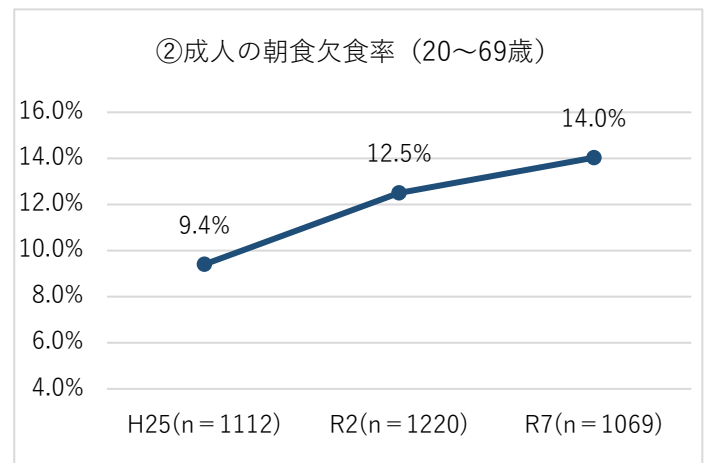
市民の食生活の状況をみると、朝食欠食率は増加しており悪化が見られるほか、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている人の割合」や「野菜を毎日食べる人の割合」もいずれも減少傾向にある。

これらの状況は、栄養バランスの偏りや生活習慣病のリスクの高まりにつながる懸念される。

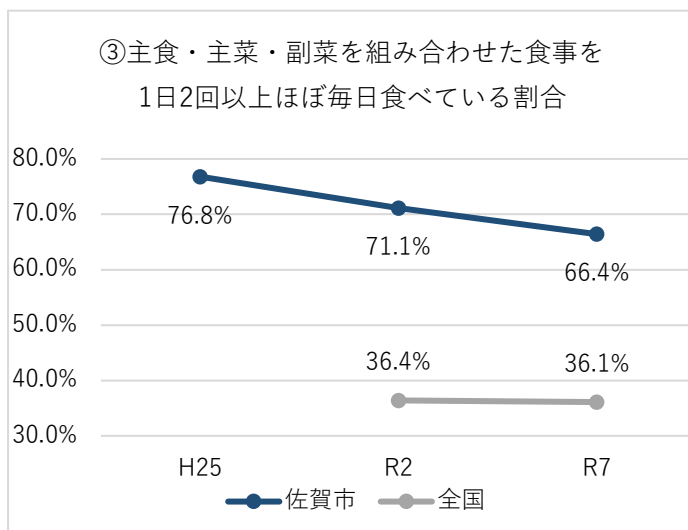
そのため、ライフステージに応じた望ましい食習慣の定着を図り、日常的にバランスのとれた食事を実践できる環境づくりが課題となっている。



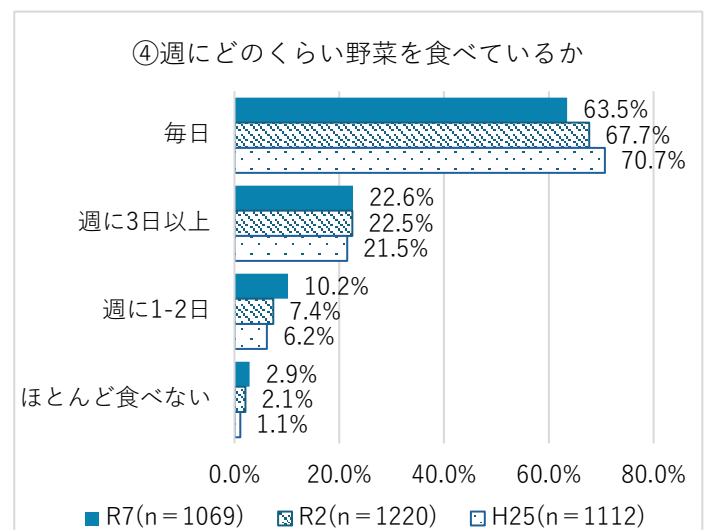
資料：（佐賀市）佐賀市教育政策市民満足度調査結果報告書
（全国）文部科学省「全国学力・学習状況調査」



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果



資料：（佐賀市）佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果
（全国）農林水産省「食育に関する意識調査」



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果

方向性 2 食卓と生産現場をつなぎ、食文化を次世代に伝える食育の推進

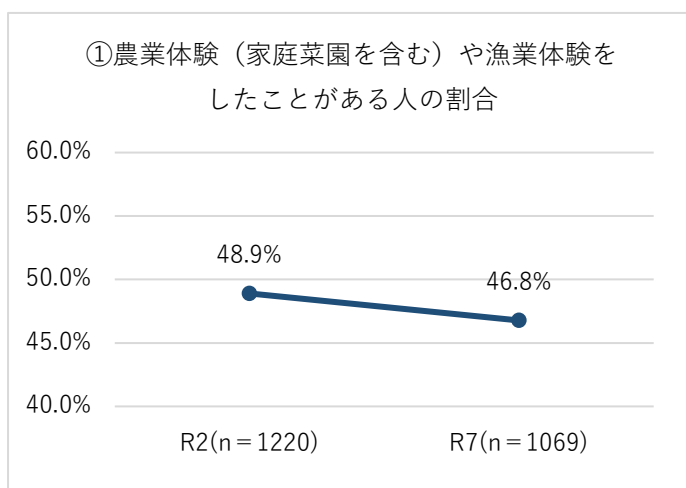
こどもから大人までが食に関する「体験」や「学び」を通じて食の背景や意味を理解することで、食卓と生産現場のつながりを強化し、地域の食文化の継承・発展を図る。

現状・課題

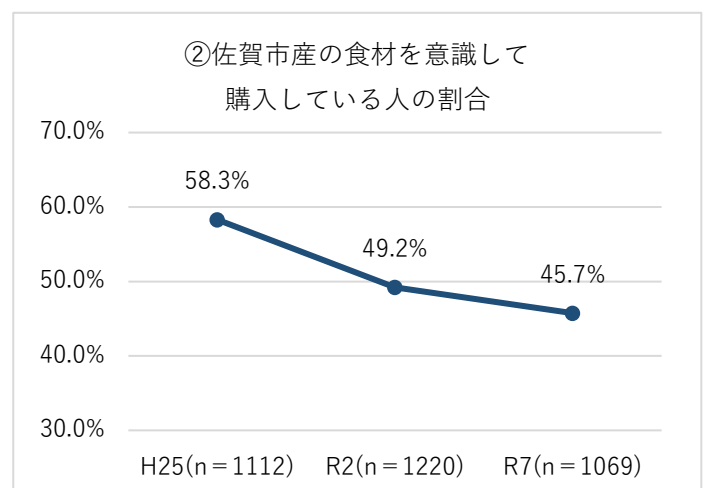
農業・漁業などの体験学習に参加したことがある人の割合は減少しており、食の生産現場に触れる機会の減少が伺える。また、佐賀市産の食材を意識して購入している人の割合も減少しており、地産地消の意識の低下が課題となっている。

一方で、栄養教諭による地場産物に関する指導は増加し、目標の月平均7回を達成しており学校現場での取組は着実に進展している。

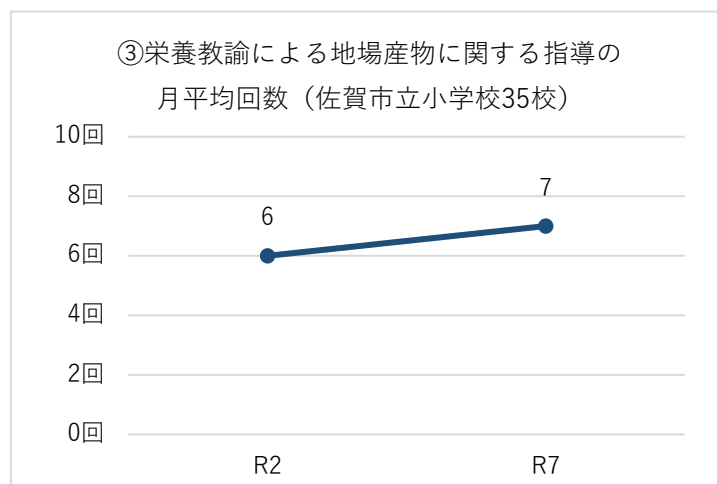
今後は、こうした取組を家庭や地域へと広げ、食と生産現場とのつながりを実感できる機会を充実させるとともに、地域の食文化を次世代へ継承していくことが求められる。



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果



資料：佐賀市栄養教諭を対象としたアンケート

方向性3 持続可能な食を支える食育の推進

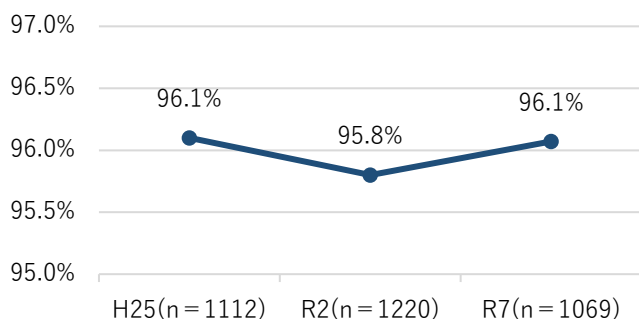
食品ロスの削減や環境への配慮、地域とのつながりや食に関する適切な情報活用などを通じて、日々の食を将来にわたって無理なく続けられる豊かで健全な食生活の実現を推進する。

現状・課題

食品ロスに関しては、食べ残しや食品の廃棄について「もったいない」と感じている人の割合は96.1%と高い水準で横ばいであり、食品ロスに対する意識が一定程度定着している。また、栄養成分表示の活用状況など、食品を選択する際の情報活用については6割程度である。

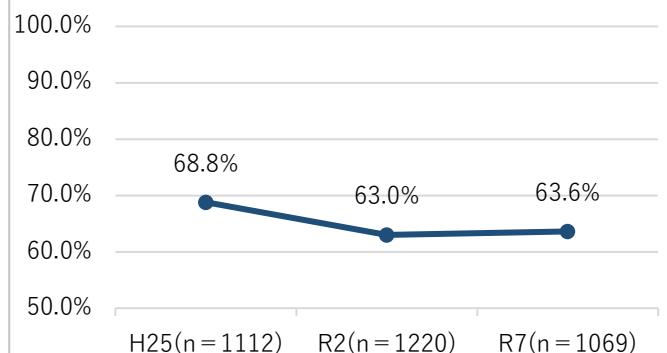
持続可能な食を支える食育の推進のためには、食品ロス削減など環境負荷の低減に向けた取組の継続や、安全性を正しく理解し、選択できる知識や情報の収集への関心を持ち、身近な人や地域とつながりのある食生活の環境を整えることが重要である。

①食品産業や家庭において食べ残しや食品廃棄が発生していることに関して、「もったいない」と感じている人



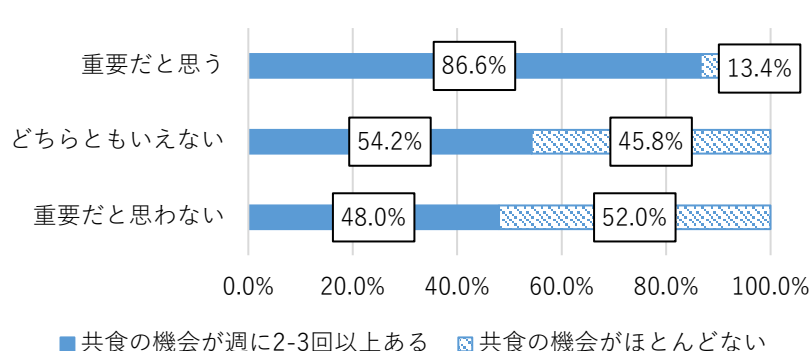
資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果

②ふだん外食や食品を購入する際に栄養成分表示を参考にしている人の割合



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果

③共食の重要性と共食の機会について(n=1069)



資料：佐賀市食育推進基本計画にかかる食育に関するアンケート調査結果